

もり 森林と共に



須田 信一さん

鮎貝自彊会前理事長

昭和 23 年深山生まれ。30 代までの約 20 年間白鷹町森林組合で林業に従事し、その後も農業に従事しながら地域の林業を支える。平成 27 年 7 月～令和元年 6 月：認可地縁団体鮎貝自彊会副理事長
令和元年 7 月～令和 5 年 6 月：認可地縁団体鮎貝自彊会理事長

【認可地縁団体 鮎貝自彊会】

昭和 29 年町村合併時に財団法人として旧鮎貝村の山林管理を目的に設立。法人改革により認可地縁団体鮎貝自彊会となる。団体は国内有数の森林所有者（約 2,700 ヘクタール）であり、これまで森林財産を活用して地域に大きな貢献を行ってきた。



小形 儀一さん

畔藤財産区 議長

昭和 25 年畔藤生まれ。山菜、キノコなどに詳しく町内各地の山を熟知。現在も町内各地の山を飛び回る。

平成 26 年～平成 30 年：畔藤財産区副議長
平成 30 年～現在：畔藤財産区議長

【畔藤財産区】

明治 22 年東根村合併時に旧畔藤村の山林管理を目的に設立。現在の杉沢区、町下区、小山沢区、広野区が対象区域となっている。所有する約 870 ヘクタールの森林は、人工林が多く、県内有数の森林所有者である。

■森林について

▼須田さん

昔林業に従事している頃は、町内各地の山で作業し、山小屋や近くの家に泊まり込みで植林や下刈りなどを行ってきた。その時、手をかけた木が

ものころから山仕事をするのは当たり前だった。学校林の薪運びや下刈り、大人になると組山（隣組で所有する山林）の下刈りなど子どもから大人まで森林に関わってきた。財産区議長になってからも、これまで育ててきた木を活かし

■森林・林業の今後・林業の期待すること

▼須田さん

これからも地域の森林を守るため、そして次の世代に続

— 森林所有者に聞く —

現在伐期に達してきている。作業をしている当時は何も感じなかったが、今は感慨深いものがある。大切に育ててきた木を活かして、そして次世代につなげていってほしい。

▼小形さん

森林は生活の一部で、子ど

たいという気持ちで財産区有林の活用を進めてきた。特にナラ枯れなどは木が高齢化することにより虫が付き、発生することから、広葉樹の更新伐採を行い地域環境の保全にも配慮した施業を進めてきた。

いていくため、関係者が連携して、伐ったら植林し、森林の保全に努めていってほしい。また、地球温暖化などの環境の面からも森林の保全は重要になってくるものと感じている。



未来へつなぐ植栽活動